

# 埼玉育ちのグローバル人

## 学び続ける者のストーリー

### 第1回「留学で人が変わるというのは本当だった」



SAITAMA

埼玉県マスコット  
「コバトン」

平成23年度「埼玉発世界行き」奨学生

長 拓実 さん



#### (1) 留学前の自分

私は埼玉大学教育学部家政専修に進学しました。大学にギリギリ合格した私は、他の友達と比べるとあまり優秀な学生とはいえず、大学の入学式の午後に行われた TOEIC のスコアは 440 点でした。その結果、成績で振り分けられた英語のクラスは下から 2 番目だったことを今でも覚えています。

そんな私が留学をすることとなったきっかけは母の勧めでした。あまり乗り気ではありませんでしたが、母の気持ちに応えようと思い行動に移りました。しかし、直面した大きな壁は語学力でした。大学の留学担当者から TOEIC (主にビジネス用) ではなく TOEFL (主に留学用) のスコアが必要だといわれ受験しましたが、120 点中 42 点しか取れませんでした。アメリカやイギリスの大学に交換留学をするには 60 点が最低ラインだといわれたため、英語圏以外の国への留学を検討せざるを得ませんでした。時同じくして、スウェーデンの大学への交換留学から帰ってきたばかりのゼミの先輩と話す機会がありました。話を聞いた私は「先輩はスウェーデンでの生活がとても楽しかったと言っていたし、北欧の教育って何か有名だった気がするし…、スウェーデンにしよう！」と軽い気持ちで希望する大学を決めました。申請したところ、幸運なことに埼玉大学よりスウェーデンのリンショーピン大学への交換留学の許可を頂き、大学3年生の夏から1年間留学することとなりました。

#### (2) スウェーデンのことを何も知らずに現地へ

スウェーデンの公用語はスウェーデン語ですが、多くの方が英語を話せると聞いていました。一応、留学前にスウェーデン語を勉強しようと思いました。が、全然理解できませんでした。それならば英語の勉強をしようと思ったのですが、単語帳をパラパラした程度でした。語学力に関しては完全に準備不足だったと思いますが、当時の私は「語学の勉強をしても改善する気がしない」と半ば諦めていた気がします。



寮のリビング

いよいよ留学初日。スウェーデンの首都であるストックホルムから電車やバスを乗り継いで何とか大学のオフィスに到着できました。大学行きのバスに留学生っぽい人がいたので、こっそりついていったら正解でした。しかし、困難はまた襲ってきました。PCで個人情報登録するよう指示を受

けましたが、この時私は「うわ…、英語だけで書かれたサイトだ…。全然読めないんだけど…」と心の中でつぶやき泣きたくなりました。それでも無事に寮までたどり着き、翌日には同じ時期に留学してきた他大学の日本人学生に出会え、言葉が通じるというのはなんて素晴らしいことなのかと強く実感しました。

### (3) 日本語が話せるスウェーデン人大学生との出会い

リンショーピン大学には、アジアの文化に興味を持つ学生が集まるサークルがあり、日本語や中国語、韓国語を学ぶスウェーデン人大学生と交流する場がありました。私はそこで、日本語がペラペラのスウェーデン人、K くんに出会いました。K くんは両親はスウェーデン人ですが、彼が生まれた頃、両親は仕事の都合で日本にいました。ちなみに、K くんは日本に10歳頃までいたので、日本語・スウェーデン語・英語がペラペラです。そんな K くと話してみると、歳も同じで好きなゲーム(シューティング・サッカー)も全く同じだったことが分かり、ゲームを通じてすぐに仲良くなれました。

K くとコミュニケーションツールは、ほとんど日本語でした。しかしそれが良かったのかもしれない。彼との会話から学ぶことは沢山ありました。スウェーデン人でありながら日本のことも知っていたため、彼は両国の事柄を客観視することができていました。語学力に関しても様々なアドバイスをもらいました。特に最初に言われたことは、日本人が英語をより上手に話すためには、アルファベットの発音をもう一度学んだ方が良いということでした。こうした会話のやり取りから、私は「K くの語学習得方法を信じる」と決意し、K くに弟子入りして一から英語を勉強し直しました。すると、不思議なことに留学してたった1か月で夢での会話が英語になる体験をしたり、3か月の経った頃には外国人の友達と簡単なコミュニケーションを取れるレベルにまで成長することができました。会話で用いる英語は中高で学んだレベルのものでしたが、自分が外国人と会話ができる

いるという事実に感動しました。その後も K くと仲はどんどん深まり、ゲームだけでなく、一緒に夕飯を食べたり、彼の実家に遊びに行ったり、ヨーロッパ旅行に行ったり、ライブを観に行ったりしました。



K くとツェッショット

### (4) 帰国後

留学から帰って来て私自身が一番変わったことは学びへの姿勢だったと思います。帰国後、授業では教授の話す内容を批判的に聞く癖が付きまして。批判的とは、欠点を指摘するような否定的な意味合いでなく、「このデータを紹介する意味は何だろうか?」「この意見は正しいのかな?」と考えながら聞くというイメージです。今まで受け身の学習しかしてこなかった私にしてみれば大きな成長です。

大学卒業後は、そのまま大学院に進学しました。大学院在籍時は、研究と並行しながら高校で非常勤講師として勤務しました。多忙な日々でしたが、ゼミの教授による手厚い指導もあり、大変有意義な時間を過ごすことができました。そんな私が大学院修了後の進路として選んだのは、自分の専門である「教育」と「家庭科」を生かしつつ海外でも働くという道でした。

次号では、中国で学校の先生をした時の話をしたいと思います。